

主な出来事

【内政】

●3月17日、コンゴ(民)東部の平和維持活動を支援し、M23の居住地域を確保するためのアンゴラ軍部隊派遣に係る投票がアンゴラ国会で行われ、全会一致で承認された

●3月25日未明、ルアンダ市内のキナシシ地区にある6階建ての建物が全壊した。全18世帯の居住者は前日から避難を開始したため、人的被害の報告はなし。

【外交】

●3月1日、ドミンゴス・クストディオ・ヴィエイラ・ロペス外務副大臣(国際協力・アンゴラ人コミュニティ担当)と鈴木徹駐アンゴラ日本国特命全権大使は、地雷分野における無償資金協力「経済社会開発計画」の協定文書に署名を行った。

●3月2日から3日、エマニュエル・マクロン仏大統領はアンゴラ訪問し、首脳会談及び仏・アンゴラ経済フォーラムにてスピーチを行った。

●3月12日から15日の日程でロウレンソ大統領が訪日し、滞在期間中、天皇皇后両陛下との御会見、二国間首脳会談が実施された他、ビジネスフォーラムへの出席、トヨタ工場及び京都視察を行った。

●3月18日、ロウレンソ大統領はルアンダでチセケディ・コンゴ(民)大統領と会談し、コンゴ(民)東部の和平プロセスについて協議した。

【経済】

●3月13日、アンゴラ民間投資輸出促進庁(AIPEX)と在京アンゴラ大使館及び日本貿易振興機構(JETRO)の共催の下、日・アンゴラビジネスフォーラムが東京で開催され、ロウレンソ大統領が出席した。

●ロウレンソ大統領は、訪日に際して、宇宙産業分野におけるLOI(趣意意向書)を日本政府と交換した他、豊田通商株式会社と太陽光システムによる地下水集水システムの建設、ワクチンの冷蔵輸送車両の寄贈及びバツハド・ダンデ経済特区における再生可能エネルギー設備及び給水システム建設に関する覚書への署名を行った。

新設及び機材導入を通じて、より衛生的で安全な分娩が期待できると述べた。

内政

1. ロウレンソ大統領のイレーネ・ネト産婦人科病院訪問

3月8日、ロウレンソ大統領夫妻は、大統領選挙後初の地方訪問を実施し、ウイラ州ルバンゴ市にあるイレーネ・ネト産婦人科病院(公立)の開院式典に参加した。ロウレンソ大統領は、今般の病院

2. コンゴ(民)への平和維持活動部隊派遣の承認

3月17日、国会の全会一致でコンゴ(民)東部の平和維持活動に係るアンゴラ軍部隊の派遣が承認された。同部隊は、コンゴ(民)東部M23居住地域の安全を確保することを目的としており、承認後

10日以内にアンゴラ軍450名の部隊がコンゴ(民)ゴマ市に向けて出発する予定。フルタード武官長によれば、派遣部隊の25%は女性で構成され、本任務遂行の初期期間として、12か月の派遣を行うと共に、派遣費用として40億クワンザ以上の予算が配賦される旨併せて述べた。

3. クイト・クアナヴァレの戦いの日及び南部アフリカ解放の日式典

3月23日、フルタード大統領府武官長は、クアンド・クバンゴ州クイト・クアナヴァレで開催されたクイト・クアナヴァレの戦い終戦35周年及び南部アフリカ解放の日5周年にあたる式典に出席した他、同地からナミビア及びザンビアを繋ぐ州内600kmの道路改修工事を年内にも開始する意向である旨を発表した。

4. ルアンダ市内における6階建て建物の全壊

3月25日未明、ルアンダ市内のキナシシ地区にある6階建ての建物が全壊した。全18世帯の居住者は前日から避難を開始しており、人的被害の報告はされていない。なお、事前待避は、住民による欠陥報告を受けて調査を実施した土木技師によって勧告されたもので、同技師は建物のメンテナンス不足や増改築、築70年による老朽化が今次倒壊に繋がったと述べた。

5. ロウレンソ大統領の新ルアンダ国際空港の視察

27日、ロウレンソ大統領は新ルアンダ国際空港を視察し、報道陣に対し、年内の開港を目指すことを伝えた。また、同行したデ・アブレウ運輸大臣は、新空港は「緑溢れる空港」を想定しており、環境団体の評価をクリアする必要がある旨付け加えた。

外交

1. 経済社会開発計画協定文書への署名

3月1日、ドミンゴス・クストディオ・ヴィエイラ・ロペ

ス外務副大臣(国際協力・アンゴラ人コミュニティ担当)と鈴木徹駐アンゴラ日本国特命全権大使は、地雷分野における無償資金協力「経済社会開発計画」の協定文書に署名を行った。本件による供与額は3.5億円。

2. パク・ヒョンジュン釜山市長のアンゴラ訪問

3月1日、パク・ヒョンジュン釜山市長が尹錫悦大統領の特使としてアンゴラを訪問し、ロウレンソ大統領をはじめ当国関係者に対し、2030年国際博覧会の釜山誘致に係る支持要請等を行った。同日、マヌエル・オーメン・ルアンダ州知事は、同特使の表敬を受け、ルアンダ・釜山市の姉妹都市締結のための意向書(Carta para geminação das cidades)に署名した。

3. マクロン仏大統領のアンゴラ訪問

3月2日から3日、エマニュエル・マクロン仏大統領がアンゴラを訪問し、首脳会談及び仏・アンゴラ経済フォーラムにてスピーチを行った。記者会見において、ロウレンソ大統領は、アンゴラはエネルギー転換に重きを置いており、仏が有するノウハウ及び仏企業による(アンゴラへの)投資に期待を寄せている旨述べた。また、首脳会談後、(1)開発支援に関する協定、(2)クレジット簡素化に関する協定、(3)地球観測衛星システムの構想・製造・調達に関する契約書、(4)(3)に関する補足書への署名が行われた。

4. メンドンサ外務副大臣とリャブコフ露外務次官の会談

3月2日、バクー(アゼルバイジャン)で開催された非同盟運動サミットのマージンにて、メンドンサ外務副大臣とリャブコフ次官は会談を行い、6月から7月に開催予定のロシア・アフリカサミットを中心に二国間協力につき議論を行った。

5. アンゴラ・ポルトガル二国間政策協議

3月5日、アントニオ外務大臣は、ゴメス・クラヴィ

一ニヨ外務大臣との間で行われた政策協議に出席するためリスボンを訪問した。今次訪問は、同政策協議出席の他、サントメ・プリンシペで開催予定のCPLP首脳会合に先立って行われる閣僚会合の調整を目的としたもの。二国間外相会談では、国際場裡における協力に関しても話が及び、大湖情勢、ウクライナ情勢についても議論が行われた。

6. エスペランサ・ダ・コスタ副大統領の第 5 回国連後発開発途上国会議(LDC5)出席

3月5日、ドーハに於いて開催された第5回国連後発開発途上国会議(LDC5)にダ・コスタ副大統領が出席。アンゴラ政府は国家開発計画 2023-2027において、3つの基本分野である人的資本の開発、インフラの拡張と近代化、食料安全保障に焦点を当てた経済多様化の着手に乗り出したと述べた。

7. ロウレンソ大統領訪日にかかる天皇皇后両陛下への御会見

3月13日午後(日本時間)、ロウレンソ大統領は、アナ・ロウレンソ夫人と共に、天皇皇后両陛下との御会見に臨んだ。

8. 日・アンゴラ二国間首脳会談

3月13日夕方(日本時間)、日・アンゴラ二国間首脳会談が行われ、ロウレンソ大統領は記者発表にて、日本との二国関係は良好であり、これまで様々な分野において協力関係を強化することが出来た他、日本のさらなる投資に期待すると述べた。既存の二国間関係の強化に関して話しが及んだ他、両首脳は昨今のウクライナ情勢について言及した。

9. アンゴラ平和維持部隊派遣の承認及びチセケディ・コンゴ(民)大統領の当地訪問

18日、ロウレンソ大統領はルアンダでチセケディ・コンゴ(民)大統領と会談し、コンゴ(民)東部の和平プロセスについて協議した。会談後の記者会見

でフルタード武官長は、両首脳の会談は非常に有意義なものであり、今次会談は、アドホック・メカニズムの実施プロセスの継続と、アンゴラ軍部隊のコンゴ(民)東部への派遣を可能とするため、コンゴ(民)政府が合理的な期間内に必要な環境整備を行うことを確認する目的で行われたと述べた。

10. CNN-Portugal のウクライナ情勢関連報道に対するアンゴラ政府の抗議声明の発出

24日、アンゴラ政府は外務省(MIREX)を通じ、「ロシアによるウクライナ侵略において、アンゴラがロシアを支援するために軍隊を派遣した」と報じたCNN-Portugal の報道内容を強く否定する抗議声明を発出。また、27日、アントニオ外相は、グテーレス国連事務総長宛に本件に関する書簡を送付したことを外務省公式FBで発表した

11. ロウレンソ大統領による新駐日新大使の任命

31日、ロウレンソ大統領は6名の新大使を任命した。ルイ・シャビエル現駐日大使は駐南ア大使に任命され、新駐日大使には、テオドリンド・コエリヨ現オーストリア大使が任命された。

12. モザンビーク議員団のアンゴラ訪問

30日、アイレス・アリ議員(元モザンビーク首相)をヘッドとする議員団がアンゴラを訪問し、クオオノカ・アンゴラ議会副議長と会談を行い、アンゴラの大湖地域へのアンゴラ軍派遣につき賞賛したと共に、同派遣はテロへの戦いにも貢献するものであると述べた。

経済

1. Winpart by CFAO 1号店のオープン

3月1日、ルアンダ州ヴィアナにて Winpart by CFAO1号店がオープンした。同社は、CFAOモーターズアンゴラ社と同様に、フランスに本社を置くCFAOグループ(2012年に豊田通商が買収。2017

年に CFAO モーターズアンゴラ社(旧トヨタ・デ・アンゴラ社)は、CFAO の 100%子会社となった。)の子会社として、ミシュラン、BFグッドリッチ、デンソー等々の自動車部品メーカーから直接調達した、高品質の認定スペアパーツを取り扱っている。

2. 地球観測衛星 Angeo-1 の製造

3 月 3 日、通信・情報技術・マスコミュニケーション省と仏 Airbus Defence and Space 社は、地球観測衛星 Angeo-1 の製造に関する契約書に調印した。Angeo-1 の運用開始に伴い、国土全土を対象に 1 日あたり 1,000 枚以上の高解像度画像の撮影が可能となる他、アンゴラの主要技術(光学衛星、レーダー、ドローンを活用した TECH-Gest、TECH-Agro、TECH-Ecology)をより効率的に運用することが可能となる。

3. 日・アンゴラ間における宇宙協力に関する LOI への署名

13 日、訪日中のゾラーナ・ペドロ国家宇宙プログラム管理局(GGPEN)局長と坂口昭一郎・内閣府宇宙開発戦略推進事務局審議官は、宇宙産業分野における LOI(趣意意向書)への署名を行った。現時点では協力期間、研修コース、対象者数は具体的に定められていないものの、今後、国のニーズと宇宙計画の発展に応じて、航空宇宙工学分野等における専門的な訓練が実施される予定。

4. 日・アンゴラビジネスフォーラムの開催

13 日、東京において日・アンゴラビジネスフォーラムが開催された。本フォーラムは、アンゴラ民間投資輸出促進庁(AIPEX)と在京アンゴラ大使館及び日本貿易振興機構(JETRO)の共催のもと実施され、本フォーラムに出席したロウレンソ大統領は、同国のビジネスチャンスと政府による改革が生み出す(投資)環境改善を中心にスピーチを行った。アンゴラからは、ロウレンソ大統領夫妻の他、カエタノ経済企画、レロ AIPEX 総裁等、多くの政府関係者及びビジネス関係者が出席。また、日本から

は、佐々木信彦 JETRO 理事長、山田賢司/外務大臣、里見隆治/経済産業大臣政務官が出席し、両国の経済関係促進のため、関係者による挨拶の他、ビジネス関係者間のマッチングも行われた。

5. 豊田通商株式会社との協力関係強化及び各種覚書への署名

14 日、アンゴラ政府と豊田通商株式会社は、アンゴラ南部における干ばつ問題の緩和を念頭においた、太陽光システムによる地下水集水システムの建設に合意した。この他、ワクチンの冷蔵輸送車両の寄贈やバツハ・ド・ダンデ経済特区における再生可能エネルギー設備及び給水システム建設に関する覚書の署名が行われた。ロウレンソ大統領は、アンゴラへの投資に関心を有する全ての日本企業を歓迎すると述べた。

6. アンゴラ中銀による政策金利引き下げの発表

21 日、アンゴラ中央銀行金融政策委員会は、今年開催された 2 度目となる会合にて、市中銀行が今後より融資を提供しやすくする目的で、政策金利を 18%から 17%に引き下げると発表した。また、マサーノ中央銀行総裁は、インフレ率は 2022 年 2 月より減少傾向にあり、2023 年 2 月は 11.54%を記録し、2015 年 9 月以降最低値となった旨発表した。

7. ロウレンソ大統領の産業 EXPO 出席

29 日、ロウレンソ大統領は第 5 回産業 EXPO に出席し、開会セッションにて、国内産物の生産増加と輸出促進の必要性につき強調した。また、これら産業への国外からの民間投資についても呼びかけ、SADC が規定する産業レベルに達することを目標にしている旨付け加えた。